

令和7年度 学校教育自己診断 集計結果分析

大阪府立三国丘高等学校 学校教育自己診断委員会

回答の分析に際しては、[1]生徒、[2]保護者のアンケート結果についてA 肯定的意見の割合が85%を超えるもの、B 否定的意見の割合が25%を超えるもの、C 経年変化の大きかったものの3区分で行い、[3]教職員のアンケート結果については経年変化から分析した。さらに[1]～[3]で取り上げなかったものを[4]その他としてまとめた。

全体としては、肯定的意見が概ね70%～90%前後で推移している。高い評価を得ている項目もあるが、現状に満足するのではなく、工夫や再考を重ね、継続・発展させていく必要があると考えられる。

[1]生徒 回答数：1年 276 (86.3%) 2年 289 (90.0%) 3年 301 (95.3%) 計 866(90.5%)

A 肯定的意見（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計が85%以上）

		肯定	否定
1	学校生活は楽しく、入学して良かった。	93.2%	4.5%
2	本校の自主自立（自律）を尊重する伝統は活かされている。	90.9%	7.0%
3	生活指導における先生方の指導は適切である。	87.5%	8.8%
4	担任の先生等、相談できる先生がいる。	87.3%	9.8%
5	必要な進路情報の提供や卒業生との進路交流会の開催など、適切な進路指導を行っている。	94.8%	4.0%
6	学校生活を通じ、将来の生き方を考える様々な機会がある。	93.4%	5.5%
7	満足できる授業が多い。	88.9%	9.8%
11	文化祭、体育祭や部活動において生徒は自主的に活動している。	95.7%	3.1%
12	学校は、生徒の健康管理や、健康指導を適切に行っている。	85.5%	10.2%
15	学校は、様々な危険防止についての指導に取り組んでいる。	87.6%	6.6%
16	生徒のプライバシーは守られている。	91.7%	4.6%
17	学校の施設設備は、学習環境として適切である。	89.4%	8.5%
18	プロジェクタ等の映像機器を活用した授業は効果的である。	94.2%	3.7%
19	三丘セミナーや大学見学、医療体験などは役立っている。	91.0%	6.5%
21	スタディツアーや海外からの訪問など国際交流に関する取り組みが充実している。	91.5%	5.5%
22	コミュニケーション等に必要な英語を学ぶ機会がある。	85.5%	12.7%
23	学校はGoogle Workspace(classroomなどのアプリ群)やchromebookなどのICTを活用している。	92.1%	6.4%

【分析】

肯定的意見が85%を超えた項目数は、一昨年度が11項目、昨年度が15項目、今年度は17項目と、毎年増加している。肯定的意見が今年度新たに85%を超えた項目は、3、4、17であった。3「生活指導における先生方の指導は適切である。」4「担任の先生等、相談できる先生がいる。」については、教員と生徒のコミュニケーションが普段から円滑にとれているためと考えられる。17「学校の施設設備は、学習環境として適切である。」については、大阪府の美化工事や130周年記念事業による更衣室等の改修が行われたことが大きく影響していると考えられる。全23項目中13項目で、この5年間で最も高い肯定的意見の割合を示していることから、今年度は生徒の評価が大幅に向上したと言える。

B 否定的意見（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計が25%以上）

		肯定	否定
9	大学受験にあまりとらわれない学習活動にも力をいれてほしい。	47.8%	42.1%
20	土曜授業は、学習時間の確保に役立っている。(1・2年) 又は、役立った。(3年)	56.1%	35.1%

【分析】

昨年度において否定的意見が 25%を超えたのは3項目であったが、今年度は前記2項目となった。9、20 はここ5年間連続して否定的意見が 25%以上となっている。9については、肯定的意見もあわせてこの5年間を見てみると例年と同じような値となっており、大学受験に必要な勉強も、大学受験にとられない学習活動も、どちらも変わらずニーズがあると言える。20 の土曜授業については、これまで本校が行ってきた土曜授業を総括する上でも参考にすべきものと考えられる。

C 経年変化の大きかったもの

		肯定					否定				
		R3	R4	R5	R6	R7	R3	R4	R5	R6	R7
2	本校の自主自立（自律）を尊重する伝統は活かされている。	79.1%	81.5%	85.0%	85.7%	90.9%	13.8%	14.3%	11.7%	11.0%	7.0%
3	生活指導における先生方の指導は適切である。	77.1%	75.4%	78.7%	76.8%	87.6%	15.2%	17.1%	15.6%	17.2%	8.8%
10	人権、環境、福祉について学習する機会がある。	79.2%	62.9%	62.6%	86.4%	81.3%	16.0%	29.7%	28.9%	11.1%	16.9%
17	学校の施設設備は、学習環境として適切である。	82.8%	82.7%	84.7%	83.5%	89.4%	14.6%	15.2%	12.8%	14.7%	8.5%

【分析】

2については、昨年度と比べて5ポイント上昇している。文化祭や体育祭が生徒主体で行われていることに加え、三丘祭といった生徒会企画が定着してきたことが反映された結果だと考えられる。3については10ポイント以上上昇している。これも生徒の主体性を尊重した結果が影響していると考えられる。10については、人権講演会の時期とアンケート実施時期によっては、結果にバラつきがみられるためだと考えられるが、令和5年度以前に比べると高い水準を維持することができている。17については、前述したように、教室やトイレなど様々な場所で改修工事が行われた結果が反映されたものと考えられる。

[2] 保護者 回答数：1年 267 (83.4%) 2年 256 (79.8%) 3年 213 (67.4%) 計 736 (76.9%)

A 肯定的意見（「そう思う」と「どちらかというそう思う」の合計が85%以上）

		肯定	否定
1	お子様にとって、学校生活は楽しく、入学させて良かった。	92.5%	3.5%
2	本校の自主自立(自律)を尊重する伝統は、よく活かされている。	88.6%	5.3%
3	生活指導において、学校の指導は適切だ。	85.2%	5.8%
5	学校生活を通じ、生徒は、将来の生き方を考える様々な機会を得ている。	87.9%	5.7%
11	文化祭や、体育祭、部活動等において、生徒の自主性が発揮されている。	93.6%	4.2%
20	学校は、教育活動について、情報提供の努力をしている。	88.3%	6.8%
22	授業参観や学校行事に参加したことがある。	90.1%	6.9%
23	三丘セミナーや大学見学、医療体験などは役立っている。	89.0%	3.1%
25	スタディツアーや海外からの訪問など国際交流に関する取り組みが充実している。	85.5%	5.2%
26	学校は Google Workspace(classroom などのアプリ群) や chromebook などの ICT を活用している。	97.1%	2.9%

【分析】

肯定的意見が 85%以上となった項目数が1つ増加した。保護者の方々が、本校の教育活動に理解を示し、賛同しているためと考えられる。追加された項目は 25「スタディツアーや海外からの訪問など国際交流に関する取り組みが充実している。」である。2年生が台湾修学旅行を実施したことや、NASA、フィリピン、オーストラリアといった海外研修などの充実がその要因と考えられる。また、26が、最も高い肯定的意見を得た。生徒への連絡事項等について classroom を積極的に活用しているとともに、chromebook の授業内外での使用等によって ICT を効果的に活用しているこ

とが評価されたと思われる。

B 否定的意見（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計が25%以上）

		肯定	否定
6	大学受験に必要な科目にもっと重点を置いた授業をするべきだ。	45.9%	27.9%
7	大学受験にあまりとらわれない学習活動にも力を入れて欲しい。	46.9%	35.1%

【分析】

6、7に関しては、例年、肯定的意見と否定的意見がどちらも高く、大学受験に必要な科目は大切であるが、同時に受験にとらわれず、広く教養も身につけることも大切であるという保護者の意見が反映されている。本校は、学校設定科目 Creative Solutions における探究活動（SSH、SGH 含む）、授業以外では部活動、生徒会活動など様々な活動が行われており、進路実現のための勉強とその他の学びのバランスをとりながら学校生活を送ることができるようなカリキュラム体制を組み、ニーズに応じている。

C 経年変化の大きかったもの

5%以上の変化がみられる項目はなかった。

[3]教職員 回答数：42 (59.2%)

経年変化の大きかったもの

※数値は肯定的意見

		R3	R4	R5	R6	R7
8	いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている。	79.4%	96.3%	95.0%	95.6%	85.7%
14	学校は、国際理解など新しい教育課題を、教育活動として積極的に取り組んでいる。	94.1%	96.3%	97.5%	97.8%	88.1%
26	学校では、事故・事件・災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化されている。	79.4%	92.6%	82.5%	86.7%	78.6%
27	学校では、生徒の活動の場として、ゆとりと潤いのある教育環境が整備されている。	41.2%	51.9%	67.5%	60.0%	69.0%
28	学校では、教員間で、授業方法等について検討する機会がよくある。	73.5%	74.1%	80.0%	68.9%	81.0%
29	学校から保護者等の外部へ発行する公文書について、校長が決裁するシステムが確立されている。	94.1%	88.9%	72.5%	88.9%	73.8%

【分析】

ここでは、昨年度と比較して数値が大きく変化した項目の中でも、特にこの5年間の水準と比較して変化が大きい項目に注目した。14については過去5年間で最も低い数値となった。今年度は海外の学生の訪問数が例年と比べて少なかったことが影響していると考えられる。一方で、コロナ以降行うことができなかつた台湾修学旅行を実施できたこともあり、生徒や保護者向けアンケートの同様の項目の数値は上昇している。26についても過去5年間で最も低い値となった。学校安全は重要な課題であることから、今後とも万全な体制の構築に向けて、随時マニュアルを改訂するなど適切に対応していきたい。28に関しては、過去5年間で最高値となった。教員相互の授業見学会や研究協議の実施が影響していると考えられる。29については年度毎の変化が大きい項目といえる。決裁システムは従来から変わっていないため、新転任教職員への研修の充実など有効な対策を検討したい。

[4]その他

①進路指導に関する事項（生徒回答）

		R3	R4	R5	R6	R7
5	必要な進路情報の提供や卒業生との進路交流会の開催など、適切な進路指導を行っている。	91.6%	92.4%	92.4%	93.2%	94.8%

【分析】

進路に関する項目は例年高い数値で推移しているが、今年度は肯定的意見が94.8%と、過去5年間で最大となった。卒業生の体験談を聞く交流会や京大キャンパスガイド、阪大ツアーの実施、研究室訪問や医学部体験など、自らの進路について考える機会が多く、生徒たちは積極的に参加していたことが要因と考えられる。今後とも情報を積極的に収集し、生徒の志望する進路の実現をめざして引き続き努めるとともに、生徒が主体的に自らの進路を選択していけるよう、情報過多や生徒が受身の姿勢とならないよう留意し、指導を行っていく必要だと考えられる。

②授業に関する事項

生徒回答

		R3	R4	R5	R6	R7
7	満足できる授業が多い。	83.2%	77.1%	81.9%	85.6%	88.9%

教員回答

		R3	R4	R5	R6	R7
28	学校では、教員間で、授業方法等について検討する機会がよくある。	73.5%	74.1%	80.0%	68.9%	81.0%

【分析】

生徒の授業の満足度に対する肯定的意見が上昇傾向にあり、今年度は過去5年間で最高値となった。同様に、教員の授業改善に関する項目の肯定的回答率は、今年度は過去最高値となった。教員相互の授業見学、研究協議、校内研修の実施等が影響していると考えられる。今後も授業満足度を高く維持できるよう努めていく必要がある。

③施設設備に関する事項

生徒回答

		R3	R4	R5	R6	R7
17	学校の施設設備は、学習環境として適切である。	82.8%	82.7%	84.7%	83.5%	89.4%

保護者回答

		R3	R4	R5	R6	R7
17	学校の施設設備は、学習環境として適切である。	71.4%	75.2%	76.3%	72.3%	72.3%

【分析】

学校の施設設備について生徒の肯定的意見は過去5年間で最高値となっている。他方で、保護者の肯定的意見はほぼ横ばいである。保護者の一部から、「生徒のロッカーが小さい」というご意見が寄せられることが多いが、現状では下足室を拡張するスペースや生徒の荷物置き場に充てられる場所の確保が、安全上の理由から困難な状況となっている。また、昨年度のPTAのアンケートでも生徒がロッカーについて強く要求しているという結果も見られなかった。保護者の意見も尊重しつつ、実態把握に努めながら、引き続き経営委員会等で検討していく。

④スマートフォンの使用に関する事項

生徒回答

25	1日にスマートフォンを勉強以外で使用している時間は平均して次のどれくらいですか。	R4	R5	R6	R7
	2時間以上3時間未満	27.0%	28.0%	28.2%	29.8%
	3時間以上4時間未満	14.5%	12.4%	12.1%	14.2%
	4時間以上	20.2%	14.8%	13.9%	13.4%

【分析】

生徒の携帯電話の使用時間については、4時間以上使用している生徒は昨年度よりは減少した。保護者の「30 お子様のスマートフォン使用について、時間制限をされていますか。」の回答では、「していない」が約79.2%となっていることから、生徒の自主性に任せている家庭が多いといえる。携帯の使用時間は生活習慣や学習時間にも関わるものなので、家庭と学校が情報交換しながら、適切に生徒に注意を促していく必要があると考えられる。

⑤読書について

生徒回答

29 一カ月に何冊くらい本を読みますか。	R4	R5	R6	R7
1冊以下	36.9%	79.0%	81.7%	82.8%
2～3冊	19.5%	17.2%	14.0%	14.0%
4～5冊	24.2%	2.6%	2.7%	2.3%

【分析】

本を読まない生徒が上昇傾向にあり、1か月に1冊以下と回答した生徒が8割を超え過去4年間で最高値となった。スマートフォンの影響等も考えられるが、そもそも読書習慣のない生徒が入学してきていることが予想される。読書は論理的思考力を養う上でも重要であらゆる学習の基盤となる。本校生徒の学力を向上させていくためにも、読書習慣をきちんと確立させていく必要がある。

以上